

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	1 自主活動の支援	② 施策番号	7401
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	4 だれもが、いつでもどこでも学べる生涯学習推進のまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	3 青少年、子どもの健全育成		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育委員会	青少年センター		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	18歳以下の子ども
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	18歳以下のこどもに学習活動の場を提供し、また、社会を担う力を身に付け、青少年のリーダーの養成や自主的な活動を支援する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	学校教育以外の様々な学習活動の場の提供を求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 講座の参加者 計算式	人	活動の場の提供がどれだけできたのか図ることができる
② 計算式		
③ 計算式		

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
			目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	
①	講座の参加者	人	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500	青少年学習活動事業の一部を元気広場推進事業へ移して記載。
			3,009	3,854	3,013	—	—	
			86.0%	110.1%	86.1%			
②			目標値					
			実績値					
			達成率					
③			目標値					
			実績値					
			達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化		
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方向性	
1	青少年学習活動推進事業	参加者数	人	3,854	3,013	3,500	9,541	9,970	10,267	A	イ	b	◎
2													
3													
4													
5													
6													
7													
8													
計	1						9,541	9,970	10,267				

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのよう貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	学習活動の場を提供することにより、様々な体験活動を通じて社会を担う力を身に付け、自主的な活動への意欲を向上させる。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	講座の参加はその年の内容による変動があるがおおむね目標値の80%は達成している。安定的に目標値を超える参加となるよう、検討していく必要がある。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	講座や、イベントにおいては、青少年を対象にしたボランティア団体の協力を得て行うものもあり、そういった団体の力をもっと活用していければと思う。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	青少年センターや市民交流センター、各小学校など様々な場所で青少年の体験活動や学習活動の推進や居場所づくりを行うことができ、適正。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	様々な体験をすることにより、広く色々なことに興味を持つこと、感動や驚き、好奇心などが自主的な活動への意欲を向上させるため、時代を担う子どもたちの支援のため重点化が必要。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	青少年センター以外の幅広い部署、団体等との連携をにより、相乗効果を上げ、参加者のニーズにあった講座などを実施していく。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	子どもたちの意見を聞き、講座企画の参考とする。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	運営委員会委員に助言や意見をいただきながら、事業の拡大を行う。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	あり方基本方針を踏まえ、今後の事業のあり方を検討する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	学習活動の場の提供を通じた自主活動の支援が適切に行われている。 参加者ニーズの把握と共に関係機関との連携など、充実した支援に向けた取組を継続されたい。	